

# 異業種で活路開いた

新型コロナウイルスの感染拡大で海外旅行を中心に旅行商品の需要が激減している中、札幌市内の旅行会社が施設の殺菌・抗菌作業などの新規事業に乗り出している。コロナ禍でニーズが急速に高まっているため、生き残りをかけ、旅行需要が戻るまでの売り上げ確保につなげようとしている。(徳永仁、榎本雅也)

## 収束見据え収入源確保

海外旅行商品を旅行代理店向けに販売するツアー・ウエーブ札幌営業所は7月下旬から、ホテルや商業、公共施設内で窓やドアなどが触れる場所を抗菌加工する事業を始めた。感染が拡大する中、本来の海外旅行商品の売り上げはほぼゼロに。仙台本社が抗菌剤の販売・施工会社と提携して新規事業に乗り出したことから、札幌営業所でも同様の事業を始めた。

ツアー・ウエーブが扱う抗菌加工は「光触媒コートイング」と呼ばれるもので、加工後は付着した雑菌やウイルスが光が当たることで二酸化炭素と水分に無害化。1度の加工で4〜5年は効果が保てるという。宿泊施設やバス会社など付き合のある企業を中心に営業活動し、他の業界も含めて数件の見積もり依頼が既に入っている。札幌営業所の斉藤正直所長は「安心して旅行してもらえようという手助けにもなれば」と話す。

旅行会社が殺菌・抗菌事業に参入するのは、感染が収束に向かうとともにニーズは減り、本業が回復するとの見通しがある。

日本旅行北海道も8月から、抗菌・抗ウイルス効果があるときれる液体「リン酸チタニア」を使って抗菌加工する事業を始めた。宗谷バス(稚内)の都市間バスなどで実施したほか、7社から問い合わせがあるという。それに先立つ5月には、空気中の菌類を滅菌する機器「エレクトローラー」の販売を始め、ホテル、旅館を中心に約60台を売った。

# 旅行会社が施設消毒

## ホテル、バス業者に営業

ツアー・ウエーブ札幌営業所が札幌市内のビルで試験的に行った抗菌加工。液体を吹き付ける作業で1平方メートルあたり1200円で施工する(同社提供)



このほか、食品製造を新規で始めた札幌の旅行会社もある。国の支援事業「Go Toトラベル」などで旅行需要は回復の兆しが見え始めているものの、感染状況によっては需要が再び落ち込む可能性もあり、今後も旅行業者による他業種参入の動きは活発化しそうだ。

切り花をプレゼントする(左から)真弓会長、鈴木知事、小野寺会長



## 切り花無料配布 鈴木知事も参加

■道経連とJA

新型コロナウイルスの感染拡大で需要が落ち込んだ花卉(かき)の消費拡大に向け、JAグループ北海道と道経連は28日、JR札幌駅で道産切り花を無料配布した。

## 消費拡大で

## 道産食材で満腹 秋の限定ランチ

■ホテルオークラ

ホテルオークラ札幌(札幌市中央区南1西5)は10月1〜31日、出来秋を迎えた道産食材をテーマにした恒例の「みのりの北海道フェア」を同ホテルのレストランやバーで開く。

洋食・中華の特別メニューや期間限定のデザートを販売。人気のコンチネンタルランチ(3千円)＝写真＝は釧路のブランド「北釧



## メデイシスが合併会社

### 薬局業務デジタル化へ

なの花薬局などを運営するメデイカルシステムネットワーク(札幌)は28日、デジタルマーケティング業務のオプト(東京)と合併会社「ファーマシフト」(同)を設立すると発表した。無料通信アプリLINE(ライン)を活用し、薬局のかかりつけ機能強化や業務の社「ファーマシフト」(同)を設立すると発表した。無料通信アプリLINE(ライン)を活用し、薬局のかかりつけ機能強化や業務の

しているといい「(成功に向けた歩みは)ちよつとずつしか進まない。とにかく事業に取り組んでいる。新事業では、道内企業にネットワークを持つ道新が